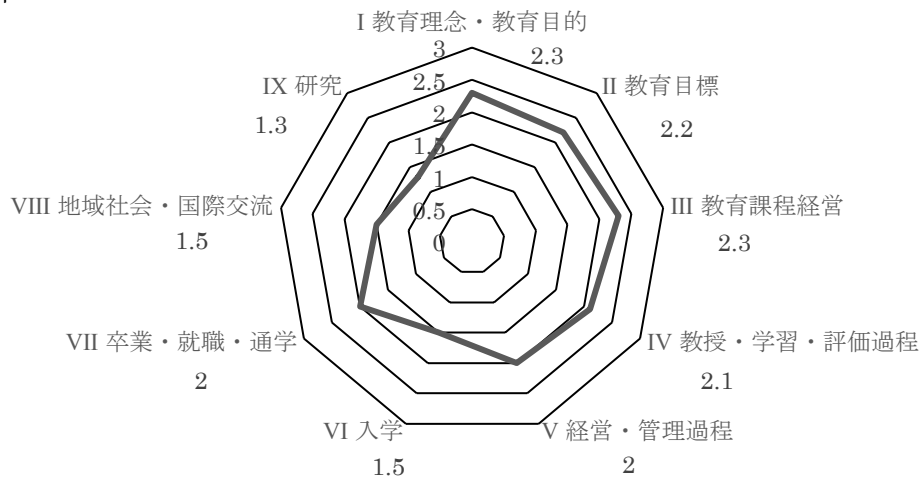


令和5年4月
看護科

自己点検・自己評価



令和4年度評価の概要と今後の課題

I. 教育理念・教育目的

令和4年4月に教育目的に即したレベル目標を設定し年間計画策定後、学生に教育目標・計画を説明した。学年毎に年間目標を挙げて、学生が中間と最終で自己評価をしている。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、学習方法変更や学習の機会が減少した。そのような状況下でも、教育の質の担保についてはオンライン授業や学内実習の継続を行い ICT の活用をできる環境整備に努めた。また、全年度の授業評価を参考に、各領域担当で授業案を検討した。新カリキュラムに向けてシラバス作成基準の修正を行った。教育内容が教育理念・目的と一貫性があり、社会の要請に応える内容になっているかを引き続き検討する。

II. 教育目標

教育目標の振り返りを行うために、卒業時点での到達度調査を実施した、その結果では75%であった。到達度が高い項目では、「自己成長できる」「授業内容に満足している」「資格が修得できる」などの項目到達度が高い。

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の対応により、全実習時間数の約80%を臨地実習、残り20%を学内代替実習で行った。学内代替実習では全領域で電子カルテ事例の看護展開の演習を導入し、思考力、判断力を養うことができた。基礎看護学実習では、ルーブリック評価を取り入れ、自己の行動を省察、課題を見出し、主体的に取り組む姿勢につながった。引き続き、教育目標と整合性がある授業計画が作成され、学生が授業内容を理解できるように修正を行なう。

III. 教育課程経営

学校評価を実施し、その結果を教員に周知するとともに、目標設定につなげている。年間目標を挙げ中間評価を実施し、その結果を後期に活かした。その結果、目標にあげた看護師国家試験は全員が合格できた。また、新カリキュラム改正に向けて、全職員間で連携し情報共有を行った。教育課程変更は、学校運営上の重要事項を検討する機会となり、また共通認識の場として機能した。

IV. 教授・学習・評価過程

教員は、学年担当制でクラス運営を行い生活支援やメンタルサポートを行っている。学習支援についてはチューター制をとり、成績のレーダーチャートを基に苦手科目の認識のため面接を実施し、主体的に取り組

む姿勢へとつながっている。また、学生の成績評価については GPA 等の客観的な指標も活用している。

国家試験対策では 1 年次よりガイダンス、模擬試験やグループ学習等を強化している。3 年次の国試対策は市販の模擬試験や教務による模擬試験を実施した。また感染対策を徹底し、オンラインを活用したグループワークや補習講義を行い、全員がコロナウイルスに感染することなく国家試験に臨んだ。

看護師国家試験の合格率

【本校 100%】 40 名受験し全員合格した。

【全国 90.8%】

V. 経営・管理過程

今年度は感染防止対策のため運営会議（年 4 回）、講師会と実習指導者会（年 2 回）等の開催回数が減少したため、学生の教育で差が生じないようにフォローしている。また、学校評価を組織的に実施し、評価結果をもとに改善計画を策定している。各学年に対する指導方針を明確にし、教員間の学習支援体制を整えている。質の高い卒業生を輩出するため、個別面接によるきめ細かい指導を行っている。パワーハラスメント対策等は、学校独自の取り組みを行っている。学校が保有する個人情報保護を周知し、実習時の守秘義務については誓約書等の提出に始まり、実習 OR でも徹底している。コロナ感染対策に関する学生支援事業を活用し、実習時の PCR 検査費用の負担軽減ができた。今後は、人材育成と共に働きやすい環境づくりの促進を図るとともに、受験者数の確保や事業計画に基づいた学校運営に力を入れていきたい。

VI. 入学

入学生の確保は困難な状況であるが、学校訪問 5 校、夜間のオープンキャンパス 4 回、学校見学会 4 回、オンライン学校紹介 4 校、ホームページの充実、ポスター掲示等、方法や内容については新型コロナウイルス感染防止措置を講じ実施した。また入学試験は推薦及び入学試験を 5 回実施したが、入学生充足率は 58% でした。今後は前年募集の見直しや准看学生のニーズを考慮し、入学者選抜方法の検討や各准看護師養成所に対する進学ガイダンスなどの計画を実施する。

VII. 卒業・就職・進学

卒業生は 40 名が卒業した。卒業生の進路については希望施設へ 100%就職ができた。その内県内への就職率は 78% で、地元への就職率の高さは本校の特徴である。就職先に関しては面接時に相談を受けて時期や施設の決定を支援している。卒業生の就職後の評価は就職先との情報交換で把握している。進学に関しては助産学校へ受験を試みたが合格できなかった。

VIII. 地域社会/国際交流

学生と教員は地域社会のニーズを把握する目的と看護教育活動の一貫として、年 1 回行政が実施する地域健康促進活動や、夏祭りの総踊り等の参加については実施できなかった。その様な中で大牟田市防災訓練が地域の小学校で開催され、学生も要救護者役で参加し貴重な体験ができた。今後も学校として地域の行事に参加し、医療・福祉への協力を継続して行う。

地域の医療施設に勤務されている、外国人看護師（EPA）の方達を受け入れ、国家試験受験対策の模擬試験やグループ学習を一緒に行っている。また、EPA の方達との国際交流の機会を活かし、専門職として職場で協働できる能力を養うことができている。

IX. 研究

教員が抱えている課題を解決できる授業研究など、環境や支援体制の仕組みが必要である。研究活動を実施している教員はいなかった。今後、各教員の計画を出してもらい、研究活動を活発にしていくことが課題である。

令和5年度目標

1. 臨地実習の質の保証及び充実に向けた検討を行う。
 - ・臨地実習の目標達成に向けて教育方法や実習評価の体制づくりができる。
2. 新カリキュラム導入から1年目、教育課程・教育方法の評価の検討を行う。
 - ・講義や演習・実習の教育方法の分析・評価ができる。
3. 各学年の教育目標の達成ができる。
 - ・1年生：解剖生理学の基礎学力を養うことができる。
 - ・2年生：病態の知識を応用した看護展開ができる。
 - ・3年生：既得の学習成果として国家試験全員合格できる。

- 令和4年度目標 1. 1年、2年生の国試対策の実施と、3年生が国家試験全員合格できる。
 2. 教職員の連携強化し、新カリキュラムの構築ができる。
 3. 入学生確保に向けて募集活動方法を教職員全員で取り組み充足率を上げる。

評価基準 A：計画通り達成できた B：おおむね計画通り達成できた C：計画通りできなかつたところもあり十分でない D：全く達成できなかつた

目標	計画	実施状況（評価判断理由）	評価																						
1. 1年、2年生の国試対策の実施と、3年生が国家試験全員合格できる。	①全学年模擬試験 <table border="1" data-bbox="613 320 902 416"> <tr> <td>1年</td> <td>2年</td> <td>3年</td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>8回</td> </tr> </table> ②業者がダンス <table border="1" data-bbox="613 459 902 555"> <tr> <td>1年</td> <td>2年</td> <td>3年</td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>3回</td> </tr> </table> ③各学年到達目標 1年：解剖生理、基礎看護学の必修問題獲得 2年：疾患の病態理解、国試問題獲得 3年：領域毎の一般問題獲得・グループワーク学習早期導入	1年	2年	3年	1回	1回	8回	1年	2年	3年	1回	1回	3回	①全学年模擬試験 <table border="1" data-bbox="1234 320 1579 416"> <tr> <td>1年</td> <td>全国 426 校中 48 位</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>全国 102 校中 20 位</td> </tr> </table> 国家試験結果 <table border="1" data-bbox="1303 443 1579 544"> <tr> <td></td> <td>受験</td> <td>合格</td> </tr> <tr> <td>本校</td> <td>40名</td> <td>40名</td> </tr> </table> ②1・2年次の国試対策では要支援学生を把握し、学習支援を行なった。 ③3年次は領域実習毎に国試問題を解答し、要支援学生にはチューター制を取り入れ個別指導を実施したことで1月の模擬試験では70%の学生がB評価に到達できていた。	1年	全国 426 校中 48 位	2年	全国 102 校中 20 位		受験	合格	本校	40名	40名	B 令和4年度合格率は100%で目標達成できた。 国家試験対策は1・2年から実施しているが、要支援学生の学習支援方法に時間を要していることが課題である。また、年々国家試験の内容が難しくなっており、従来通りの対策では不十分である。 更なる国家試験対策の強化が求められる。
1年	2年	3年																							
1回	1回	8回																							
1年	2年	3年																							
1回	1回	3回																							
1年	全国 426 校中 48 位																								
2年	全国 102 校中 20 位																								
	受験	合格																							
本校	40名	40名																							
2. 教職員の連携強化し、新カリキュラムの構築ができる。	①新カリキュラム計画案作成 ②現行カリキュラムの問題点抽出し再考する ③教育理念と卒業時到達像との関連 ④シラバス作成：講師、実習施設の調整 ⑤カリキュラム変更に伴う申請手続き	①現行カリキュラムの問題点：教育理念の概要が明らかでなく、各科目の整合性が不明瞭な点を修正し、教育理念・目標、卒業生の特性等用語理解し成分化した。 ②科目間の関連性、進度の検討：カリキュラムツリー作成、教務担当科目の講義内容抽出をおこないシラバスを作成した。 ③新任講師・実習施設を決定しカリキュラム変更に伴う申請手続きは完了し認定を受けた。	B：会議は計画通りに実施できない事もあったが、令和5年度入学生からの新カリキュラムが構築できた。 新カリキュラムは現行66単位から70単位へと単位数も増えた。カリキュラム科目は解剖生理学や基礎看護学などの科目内容を充実したため達成できるように協力して臨みたい。																						
3. 入学生確保に向けて募集活動方法を教職員全員で取り組み充足率を上げる。	①ナイトオープンキャンパス・学校案内 各4回計画 ②オンラインでの学校紹介 ③学校訪問 ④学校紹介動画作成（Tiktokの編集機能を獲得）	①ナイトオープンキャンパス・学校見学各4回実施 参加18名（内入学生：9名） ②学校紹介（鹿本、菊池、柳川、小倉、本校実施） ③学校訪問5校（鹿本、菊池、柳川、小倉、鳥栖三養） ④動画製作活動実施したが配信には至っていない。 令和5年度入学生23名：本校19名、他校4名0	B：令和3年度は入学生29名で73%であったが、令和4年度は23名、充足率58%で減少した。しかし、経済的な理由で進学を断念する学生もいるため、「働きながら学べる履修内容」や「進学のメリット」など夜間の学校をアピールする広報の充実を図る必要がある。																						

令和5年度目標

1. 臨地実習の質の保証及び充実に向けた検討を行う。
 - ・臨地実習の目標達成に向けて教育方法や実習評価の体制づくりができる。
2. 新カリキュラム導入から1年目、教育課程・教育方法の評価の検討を行う。
 - ・講義や演習・実習の教育方法の分析・評価ができる。
3. 各学年の教育目標の達成ができる。
 - ・1年生：解剖生理学の基礎学力を養うことができる。
 - ・2年生：病態の知識を応用した看護展開ができる。
 - ・3年生：既得の学習成果として国家試験全員合格できる。